

● 2月26日(金)
いよいよ当日。

前半は藤井杏奈さん、後半は梅野凜香さんが議長を務めました。10名全員が、落ち着いた、しかし力強い口調で自分の提案を発表しました。町長も終始、子どもたちの提案を真摯に前向きに受けとめ、熱心に答弁してくださいました。

また、教育長、課長さんからの答弁もたくさんいただきました。

子どもたちも負けてはいません。「3番ー」などと手を挙げて、町長の答弁に対して再質問するなど、熱い議論であったという間に予定の2時間が過ぎていきました。

議会を見守ってくださった亀谷議長さんからは「豊かな自然に関連した提案と未来指向の提案が多かったですね」とお褒めの言葉を頂戴しました。

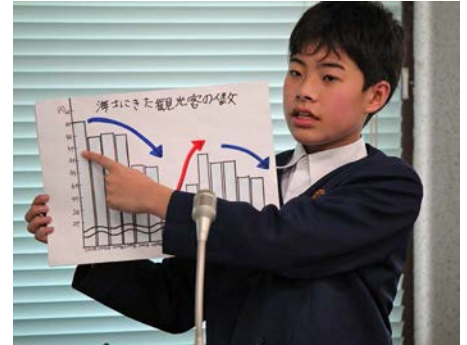
末尾になりましたが、子ども議会の取り組みにご協力いただいた関係各所の皆様、本当にありがとうございます。感謝申し上げます。

(教育総務課 指導主事
坂田 幸義)



「あかもくを海士の新しい特産物にしよう」
(梅野凜香さん)

「100周年をむかえる隠岐神社の桜を未来に残していこう」
(藤井杏奈さん)



「ミニ水族館で海士の魅力を伝えよう」
(島根海正さん)



「家族で島民生活を体験してもらおう」
(澤井虎伯さん)



「ゴミを拾おうデーにたくさんの参加者が来るようなチラシを作ろう」
(稲葉陽和さん)



「子どもの遊び場所を増やそう」
(亀谷和奏さん)



「海士町の公園を子どもから大人まで気持ちよく使えるようにしよう」
(井上琴音さん)



「ゴミを減らして農家の人たちが気持ちよく作業できる町づくりをしよう」
(飯古樹さん)



「通学路に街灯を増やして安全な町にしよう」
(濱田真緒さん)





これまでの歴史を踏まえて 海士町子ども議会



平成16年度から始まったこの活動は、今年12回目となりました。これまで子どもたちが積み重ねてきた提案を数えてみると、なんと2223にもなりました。(ちなみに記念すべき第1号提案は「海士の自然をふやそう」でした。)

このうちすでに実行にうつされた提案は40。継続的に進行している提案は69。つまり、約200もの提案のうちの半分が実行にうつされて町づくりにつながっているのです。

子ども議会の取り組みは、つい先日NHKの番組で紹介されました。2月に放送された、「あしたへ」という東北の震災復興をサポートする番組でした。そこで海士の子どもたちが積極的にまちづくりに関わる様子の一コマとして、子ども議会が紹介されたのです。(島前高校の地域学や海士中学校の海士の良さを追求する学習もあわせて紹介されました。)

以上のような歴史を踏まえての第12回子ども議会。

以下、子どもたちの取り組みを日記風に紹介します。



宇受賀地区での調べ学習

●11月

6年生と5年生の子どもたちは山内町長と出会いました。そこである子がこう質問しました。

「海士町の自慢は何ですか?」

町長は即答しました。

「一番の自慢は人です」と。

子どもたちは山内町長から熱い志を注入されました!

●12月

地域に出かけ、地域の良さと課題に気づいていきました。出かけるにあたっては集落支援員から地域の調べ方や課題のまとめ方を教わりました。共に力を合わせて学ぶことで、子どもたちのチームワークも高まっていきました。

地域では、くらしや産業のあり方を調査しました。ご協力をいただいた皆様、その節はたいへんお世話になりました。子どもたちは地域の願いや課題について、自分なりの思いや考えをもつようになりました。

12月、学習はさらに深まりました。おぼろげながら見えてきたテーマについて、役場の課長さんに質問し、町の様子や状況について具体的な話を聞かせてもらいました。課長さんとのやりとりを通して、自分の提案がより明確になつていきました。

●1月

子どもたちには頼もしいアドバイザーがいました。中学生や高校生の先輩たちです。中学生からは子ども議会の体験談を聞き、見通しをもつことができました。島前高生には調べ方について相談のつてもらいました。

その後、中間発表会を行いました。地域での調査活動でお世話になった方や高校生にも来ていただき、自分の提案を伝えました。

「なるほどね。よく調べたね。」と褒めてもらうとともに、わかりにくいところやもつと調べた方がいいことなどへのアドバイスを得る貴重な時間となりました。